

ふくしま えこみゆー 初期調査報告

第三回創造的復興研究会

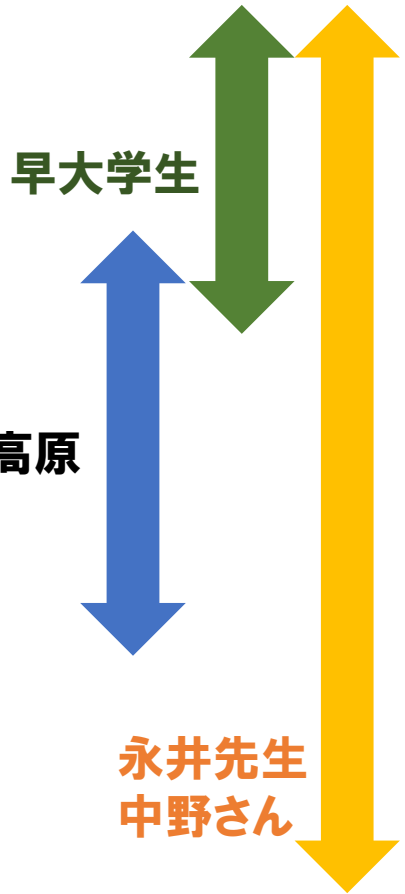
ながい・ゆうじ
なかの・けんたろう
たかはら・こうへい

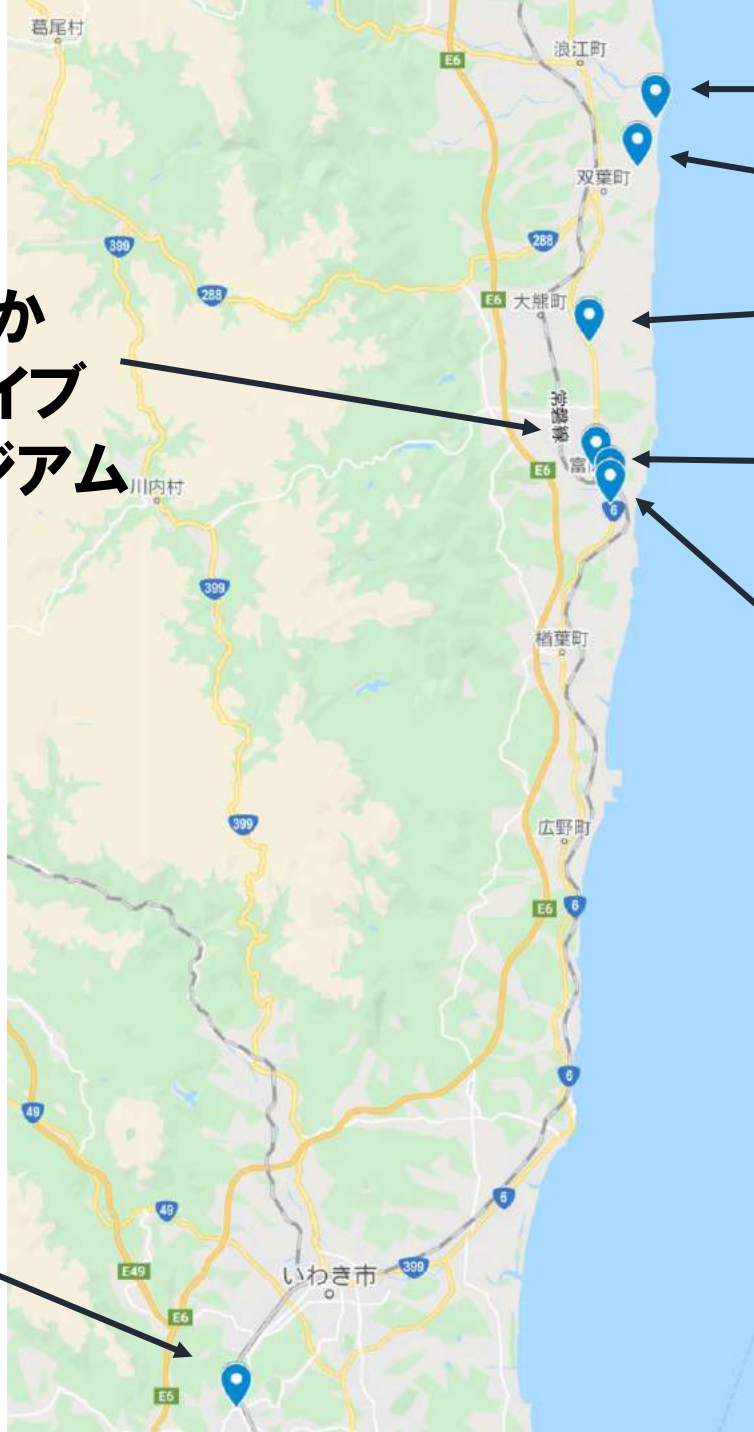


▲とみおかワインドメースより遠望せる2F（報告者撮影す）

旅程

- 11/22 福島第一原発、ふたば未来学園など
- 11/23 中間貯蔵施設(見学)、とみおかアーカイブミュージアム
- 11/24 いわき考証館、中間貯蔵情報センター、廃炉資料館、
windメニュー(訪問のみ)、ふたばいんふお
- 11/25 旧請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館





旧請戸小学校

原子力災害伝承館

中間貯蔵工事情報センター

廃炉資料館

ふたばいんふお

とみおか
アーカイブ
ミュージアム

考証館
furusato

目的と方法

- **福島浜通り「エコ・ミュージアム」構想の糸口／ポテンシャルを探る**
- **そのために域内の代表的な既存ミュージアム系施設を訪問し、展示形態等を調べ、また各施設責任者に面接調査を実施する**
- **特に「他施設との接続」の状況や意向を明らかにする**
- **今回含めた調査を通じて、EM実現の素地となる、域内施設の詳細なカ
ルテを作成する**

1. とみおかアーカイブミュージアム

運営	富岡町
開館	2021年7月20日
来場者	4ヶ月弱で1万人
テーマ	富岡町の歴史を、先史時代から震災まで同じ眼差しで描く。 「展示を備えた収蔵庫」
展示の特徴	収蔵史料そのものに語らせ、物語性は抑制する
ネットワーク志向	域内の史料レスキューの基盤 観光庁被災地バスツアー(廃炉資料館、いわき震災伝承未来館)

2. 原子力災害考証館 furusato

運営	いわき湯本温泉古滝屋(民営)
開館	2021年3月
来場者	
テーマ	原発災害で失われた／失われゆくものを捉える (生活、家族、町、自然など)
展示の特徴	畳敷の客室を改装 個人的な物語性(遺骨・遺品の搜索と展示) 偶然ふらっと立ち寄る
ネットワーク志向	地元・理念密着型 被災地ツアー 相思社考証館(水俣)

3. 中間貯蔵施設・中間貯蔵工事情報センター

運営	中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (国の全額出資による特殊会社)
開設	
来場者	
テーマ	中間貯蔵事業の現状の広報
展示の特徴	情報センターはパネルと動画による説明 低線量土壌の処理、埋蔵工事等の現場見学 中間貯蔵事業はもうすぐ一段落
ネットワーク志向	「りぶるん」とは展示資料等を一部共有 エリア内の民家・施設等も「資源」に

4. 廃炉資料館

運営	東京電力
開館	2018年11月30日
来場者	
テーマ	事故から収束までの経緯、廃炉事業の状況についての広報
展示の特徴	職員による説明 旧「エネルギー館」の改装
ネットワーク志向	原子力産業の広報、廃炉・除染事業の進捗 東日本大震災原子力災害ミュージアム、とみおかアーカイブ ミュージアム、 <u>コミュタン福島</u> 、 <u>原子力科学館(東海村)</u> 、 <u>リブル ンふくしま</u> 、 <u>中間貯蔵工事情報センター</u> 連携も企業の意志表示になるので制約が？

5. ふたばいんふお

運営	双葉郡未来会議
開館	2018年11月5日
来場者	
テーマ	双葉郡住民の情報交換 郡内の営為の歴史化
展示の特徴	「ヴィレヴァンみたい」、動画の撮影・リスト化も 詳細な年報を発行
ネットワーク志向	もともと郡内住民ネットワークのハブとして設立 原子力災害伝承館からも見学者流入

6. 旧請戸小学校

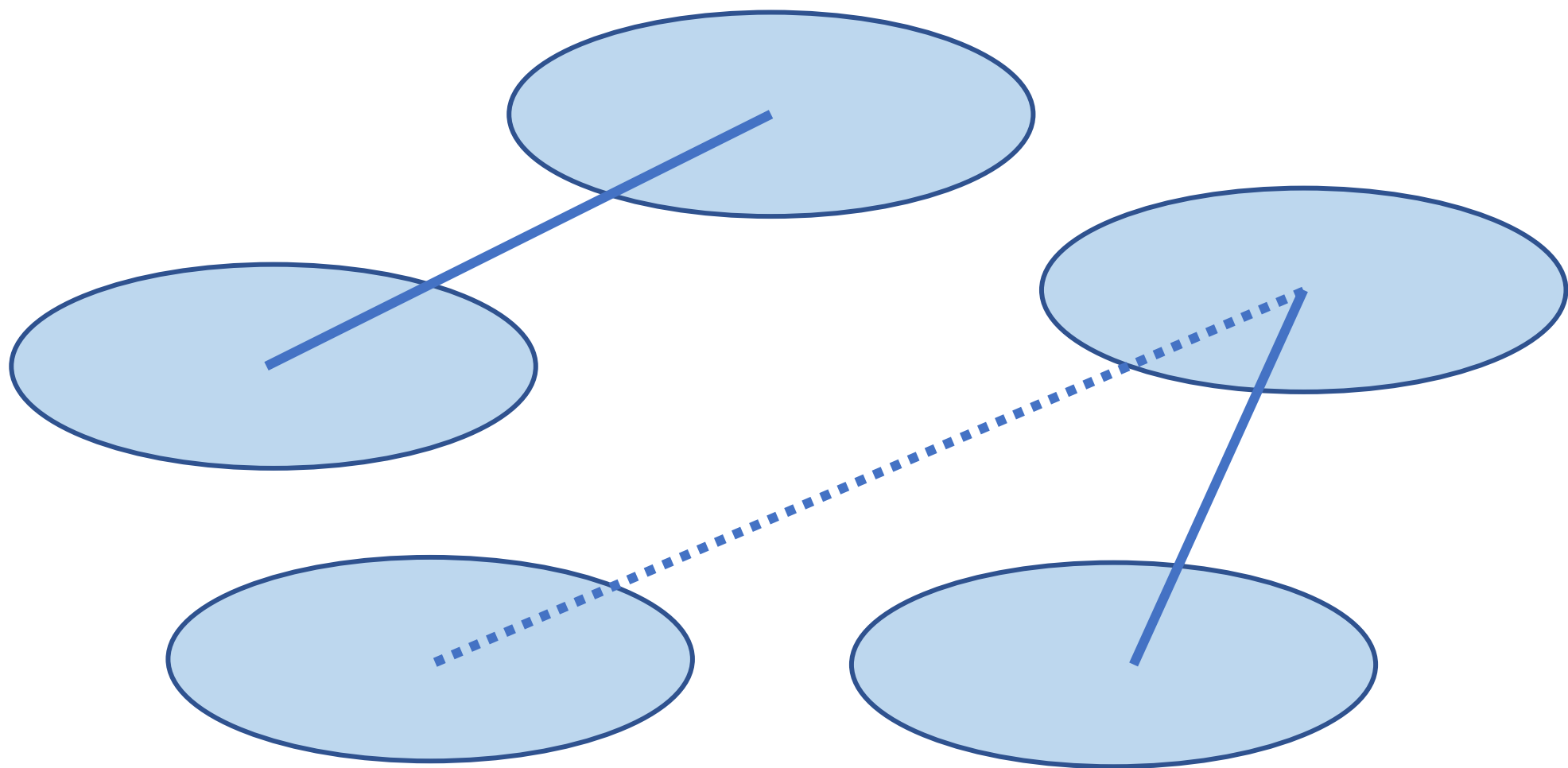
運営	浪江町
開館	2021年10月24日(開校は1875年)
来場者	
テーマ	津波被害の遺構、避難の重要性
展示の特徴	
ネットワーク志向	浪江町内での周遊・学習 道の駅、水産加工団地、復興祈念公園、伝承館、実証フィールド 卒業生が伝承館に就職、職員が語り部ピンチヒッターとして伝承館に行くことも

7. 東日本大震災・原子力災害伝承館

運営	福島県
開館	2020年9月20日
来場者	
テーマ	複合災害の記録と記憶の全体像の学習、伝承 収蔵・収集・研究機能
展示の特徴	実物資料・パネル・映像による時系列の物語 32名の語り部が在籍
ネットワーク志向	コンセプトの違い踏まえて連携意欲はある。 請戸小学校とは共通点・地理的距離等で連携し、 セット化することは可能。

全体的な傾向

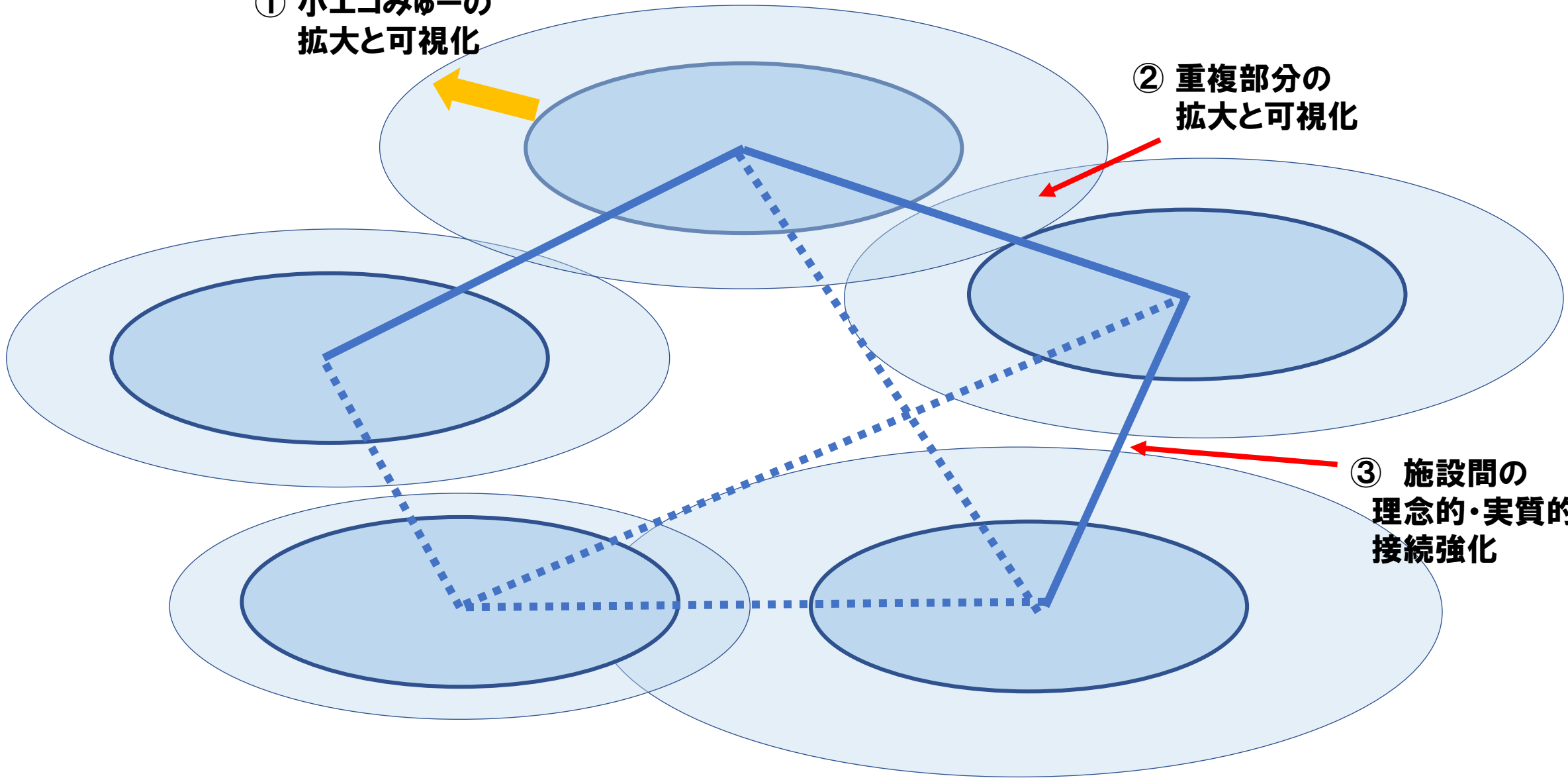
- 各施設はすでに一定のネットワーク志向を持っている
- どの施設もまだ開館間もない(1年未満～3年)ため、根は伸び始めたばかり
- 「小さなエコみゅー」
 - 自施設の理念を中心とする同質的なネットワーク
 - かならずしも浜通り域内に限定されない
 - 小さなエコミュー同士はなかなか重ならない?
 - 小さなエコミューの充実は各施設に直接役立つ
- 「多角的なつながり」
 - 原発災害は空間・時間的な広がりの中で生じる複雑な出来事
 - 単一施設だけではそれを表象・学習することは不可能



① 小エコみゅーの
拡大と可視化

② 重複部分の
拡大と可視化

③ 施設間の
理念的・実質的な
接続強化



とみおかアーカイブミュージアム	考証館 furusato	中間貯蔵施設	廃炉資料館	ふたばいんふお	旧請戸小学校	原子力災害伝承館
域内史料 歴史学	失われゆく声・ 風景・自然	(結果的に)1F 直近地域全体 を包摂	廃炉・除染事業 の進捗	住民間交流 歴史化	津波災害 町内周遊・学習	複合災害の全 体像
バスツアー 福島大学	地域ツアー	りぶるん	1F	原子力災害伝 承館	原子力災害伝 承館	旧請戸小学校

現状、見えづらいテーマ

- ・ 原発誘致の過程、震災以前の存在感や雰囲気
- ・ 「日本」と福島の関係
- ・ 域外とのつながり(広島、長崎、チェルノブイリ、TMI、水俣など)
- ・ 域外長期避難者の存在
- ・ 自然観、宗教性、死生観
- ・ 文学、芸術表現
- ・ 記録と記憶(と忘却)への偏執的意志



▲中間貯蔵施設辞去時に前後輪ともにパンクせる借用車（報告者撮影す）

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター主催
福島浜通り復興研究ワークショップ
実施アンケート分析

2021/12/20

WASEDA UNIVERSITY



ワークショップ概要

ワークショップの目的

東日本大震災・福島第一原子力発電所（1F）事故から10年余が経過し、復興事業が進められていますが、未だに帰還困難区域を抱え、原子力緊急事態宣言が継続している。

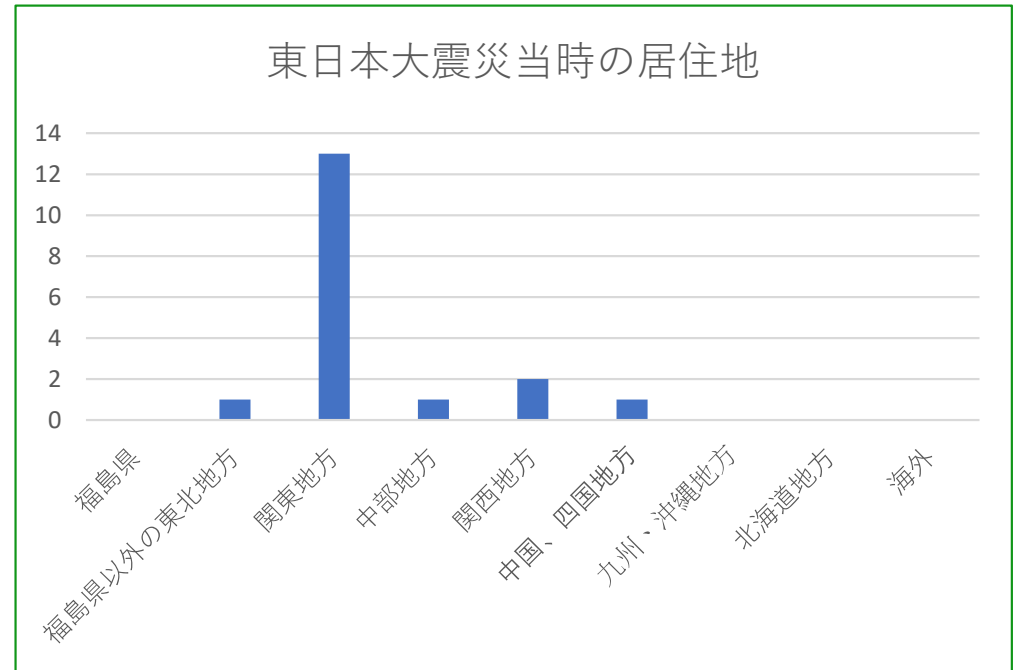
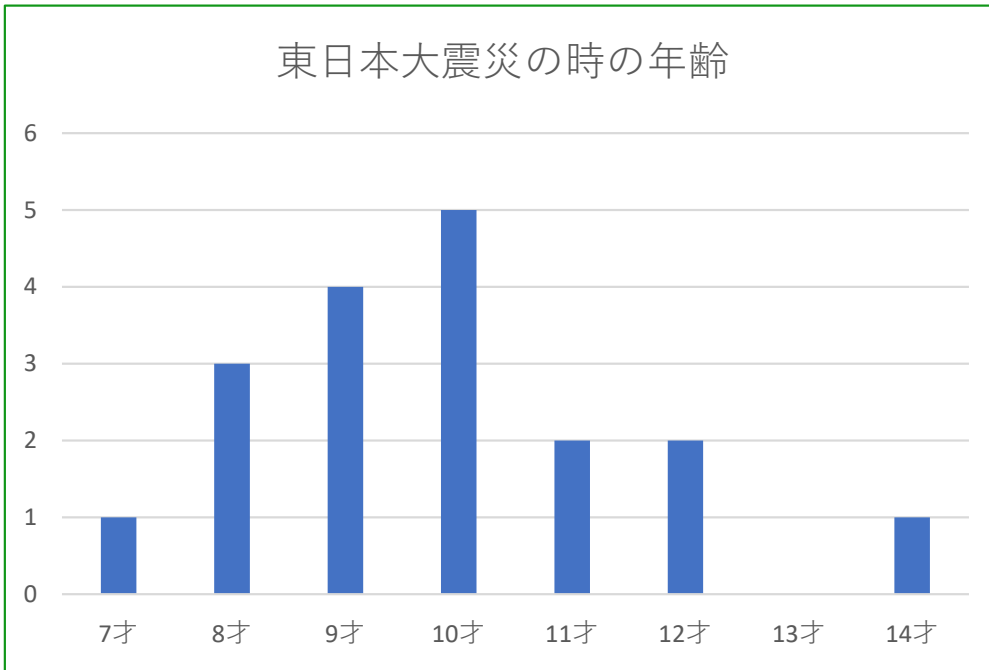
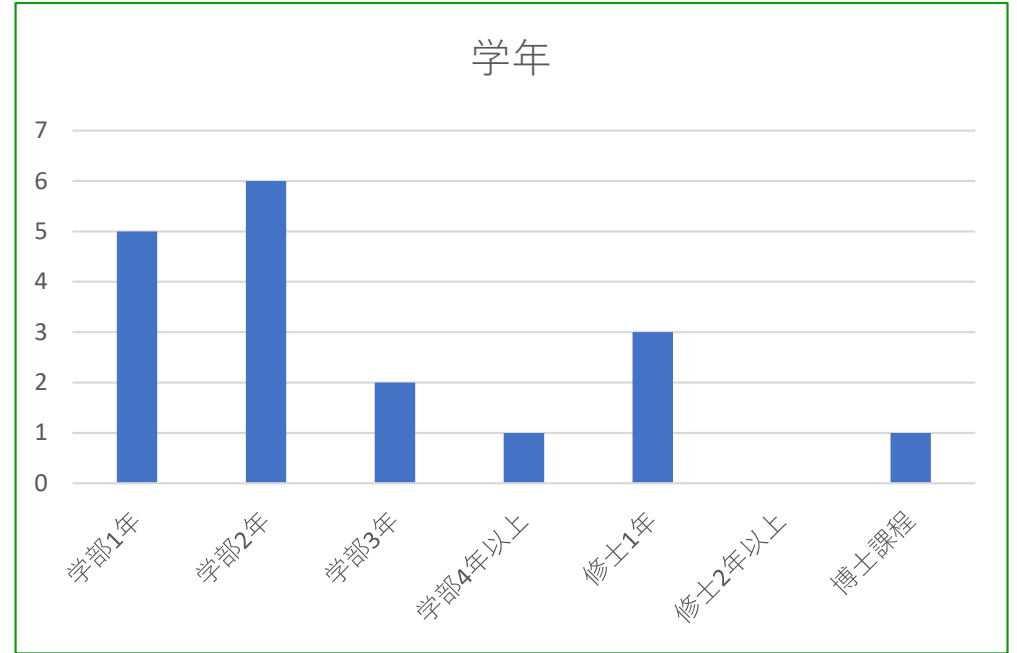
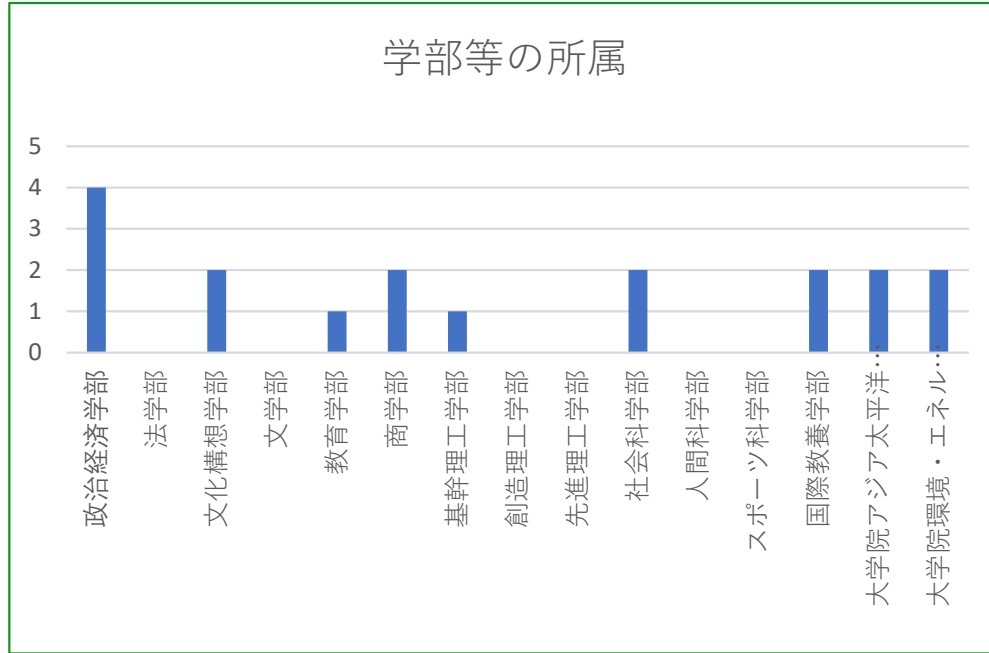
本ワークショップでは、そうした福島復興の現状を視察し、1F事故の原因や教訓を考え、福島県浜通り地域の災害伝承アーカイブ施設や震災・事故遺構などを共に学ぶことを試みる。

本事業は文科省補助事業である福島「復興知」事業の一環として実施する。

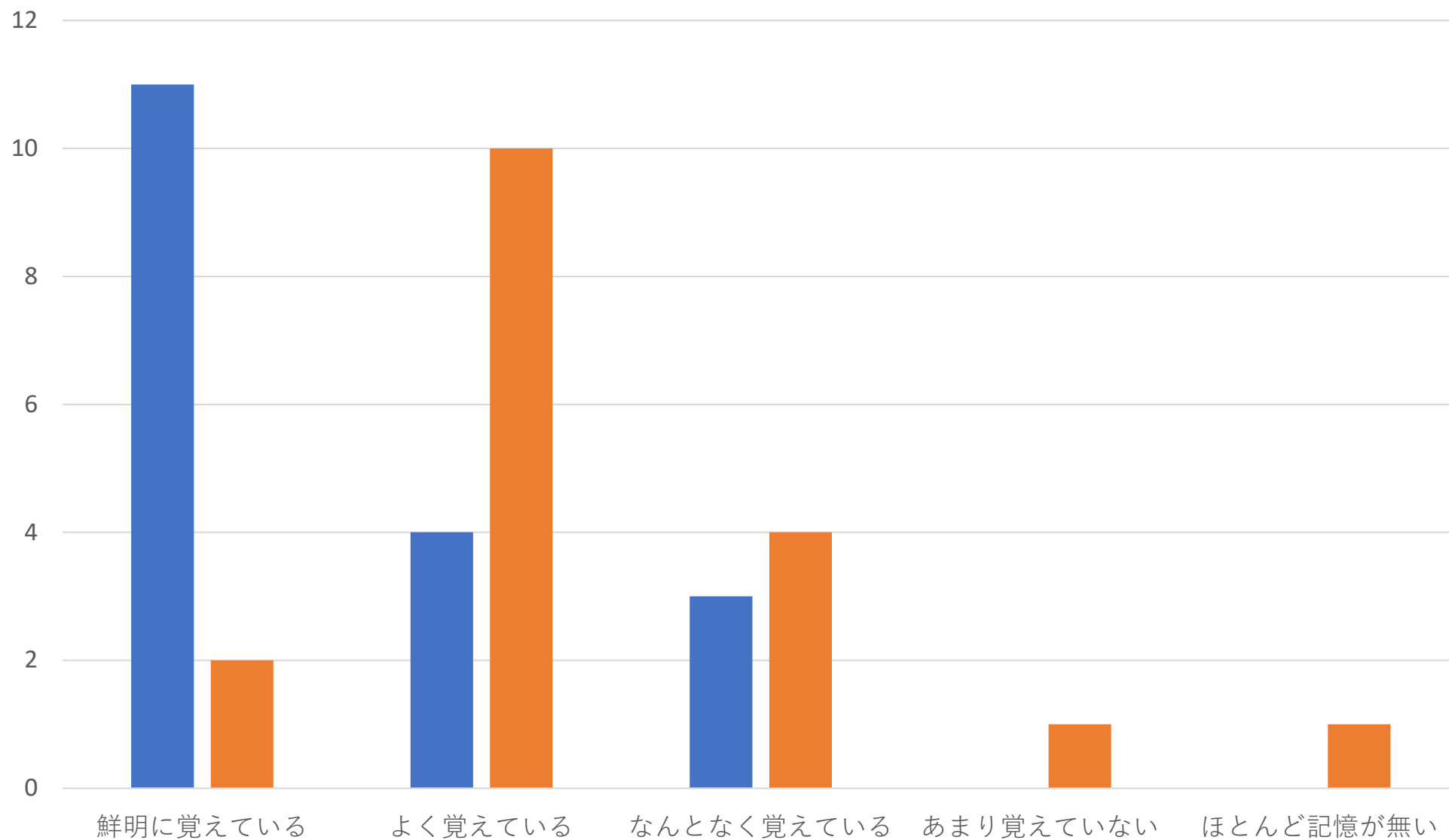
調査の内容

- 復興が進む地域で整備されつつある博物館・ミュージアム・遺構などを見て、今まで認識していなかった事実を発見する。
- 各施設から学び取れるメッセージ・教訓を言語化する。
- 地域の中高生やリーダー人材と対話し、対話を通じて考え方を整理する。
- 対話を通じて、震災や事故をいかに自分事とらえることができるか考える。
- こうした施設等を地域の復興という視点で捉え、その価値を見だし、積極的な活用を考える。

回答者の属性情報 n = 18



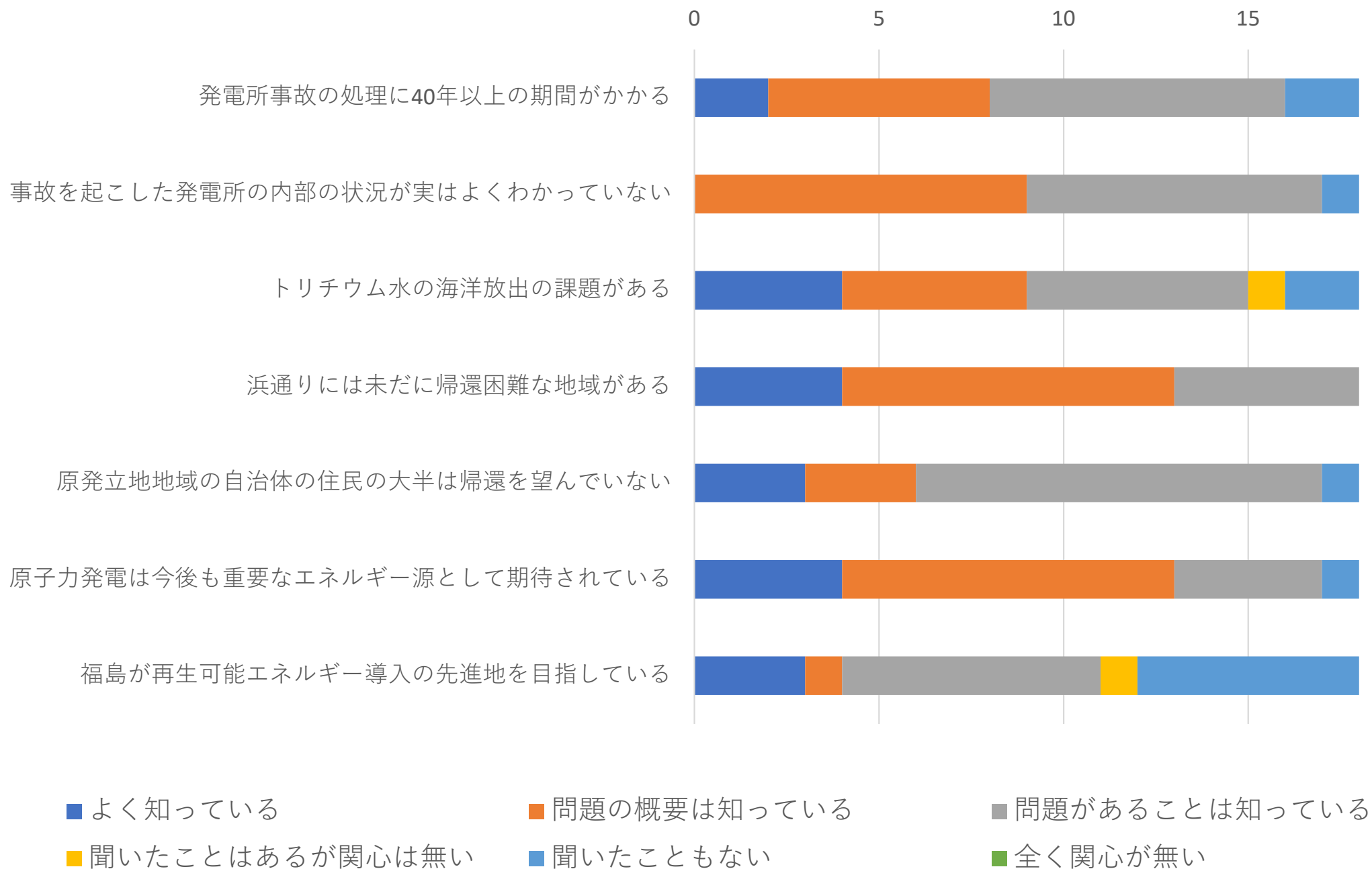
福島第一原子力発電所の事故の当時、事故の深刻さをどのくらい感じていますか。



■ あなたは東日本大震災の当時の記憶はありますか？

■ 特に福島第一原子力発電所の事故について限定すると、当時の記憶はどうでしょうか。

福島第一原子力発電所の事故の当時、事故の深刻さをどのくらい感じていますか。



スケジュール

11月21日(日)

- 12:30 東日本大震災・原子力災害伝承館 (語り部 青木淑子先生)
- 15:15 請戸小学校遺構
- 16:10 水素実証施設 + 太陽光パネル
- 17:00 Jヴィレッジ 泊
- 18:30 **参加者同士の対話**

11月22日(月)

- 10:30 東京電力廃炉史料館
福島第一原子力発電所
- 15:30 集会所「整の箱」・ブドウ畑など (お話し 遠藤秀文さん)
- 16:30 **ふたば未来学園 地元高校生との対話**
- 19:00 Jヴィレッジ 泊
- 19:30 **地域リーダーとの対話の場**

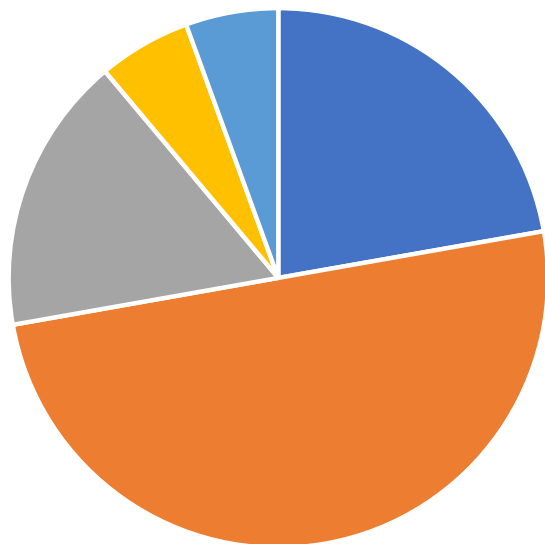
農業関連視察コース
大熊町での農業の取り組みなどを視察

11月23日(火・祝)

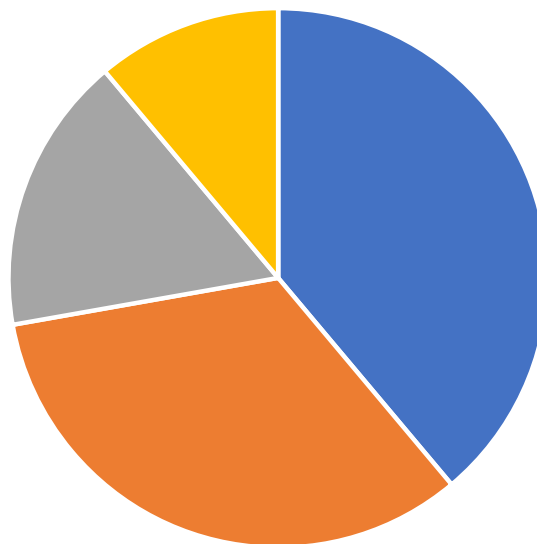
- 10:30 中間貯蔵施設
- 13:30 とみおかアーカイブ・ミュージアム (学芸員 門馬健さん)

福島第一原子力発電所の事故の当時、事故の深刻さをどのくらい感じていますか。

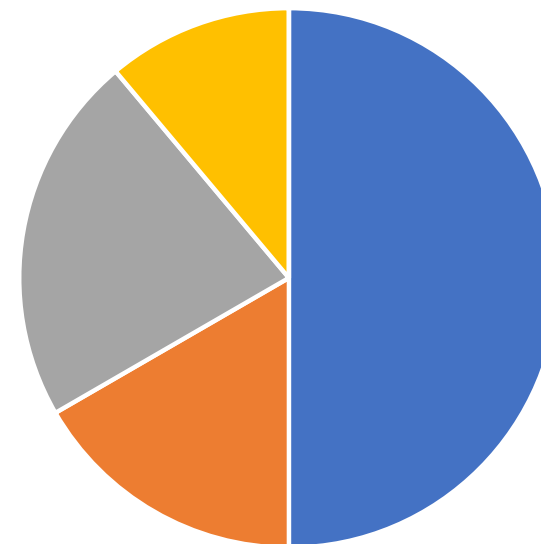
福島第一原子力発電所の
事故の当時



ワークショップ
参加前



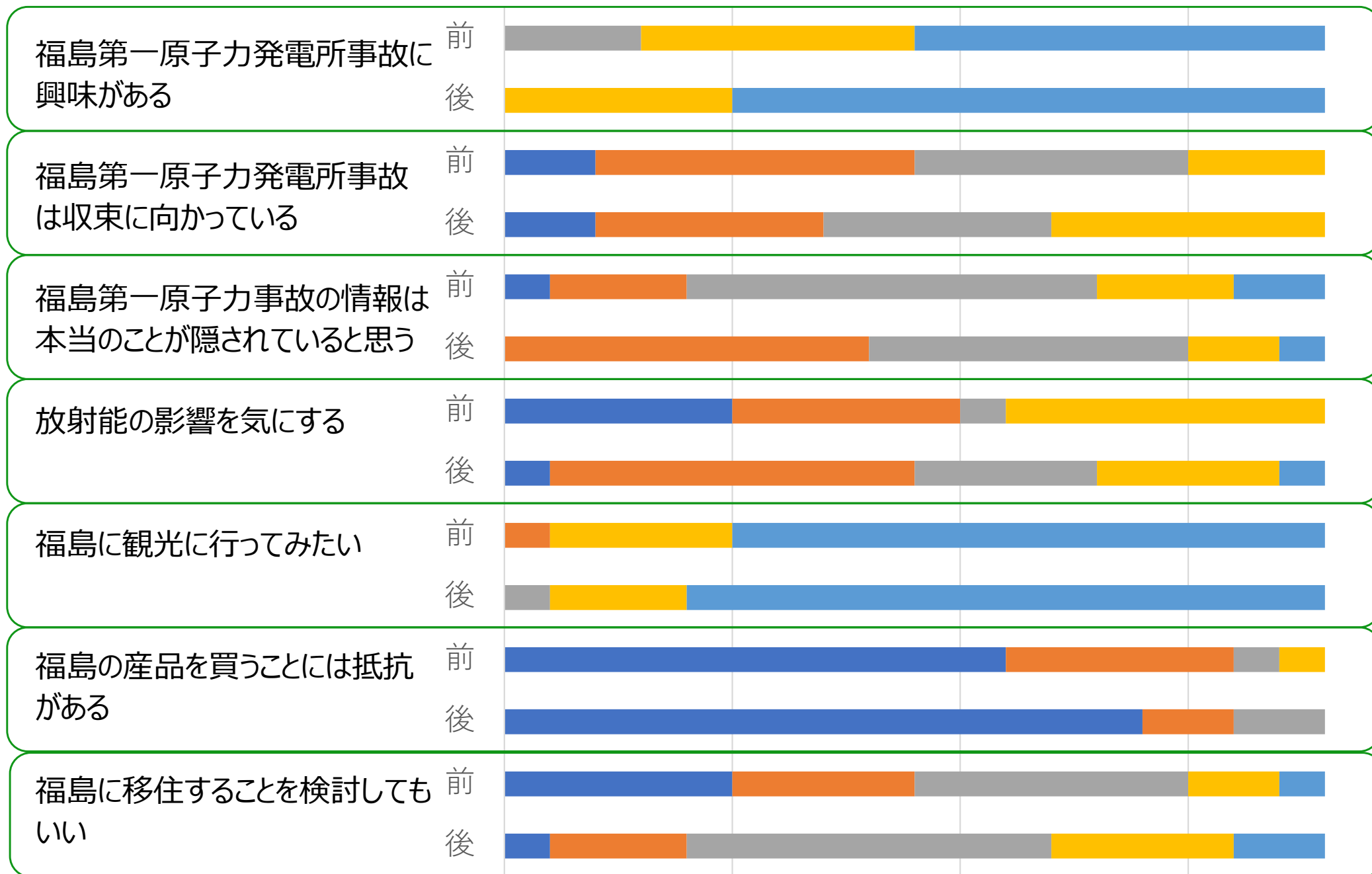
ワークショップ
参加後



- 大変な事態だと恐怖を感じた
- 自分たちにも深刻な影響があると思った
- 直ちに深刻な事態にはならないと感じていた
- 自分は安全だと思っていた
- なにも感じていなかった

福島（浜通りに限定せず）の印象を教えてください

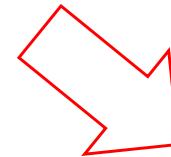
0 5 10 15



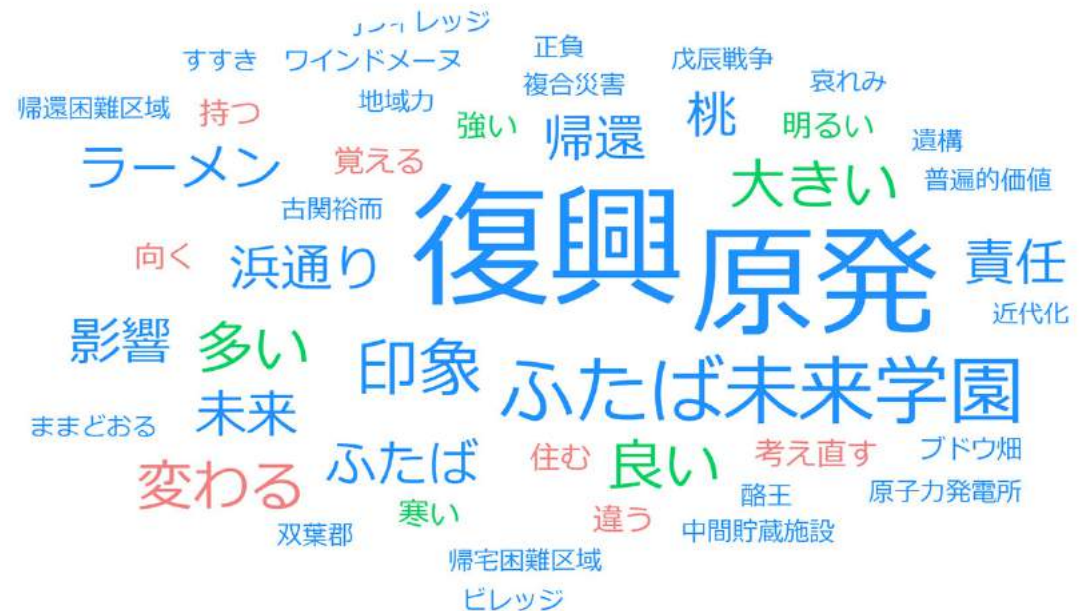
■ まったくそう思わない ■ そう思わない ■ どちらとも言えない ■ そう思う ■ 強くそう思う

福島県の印象として、思いつくワードを5つ以上あげてください。

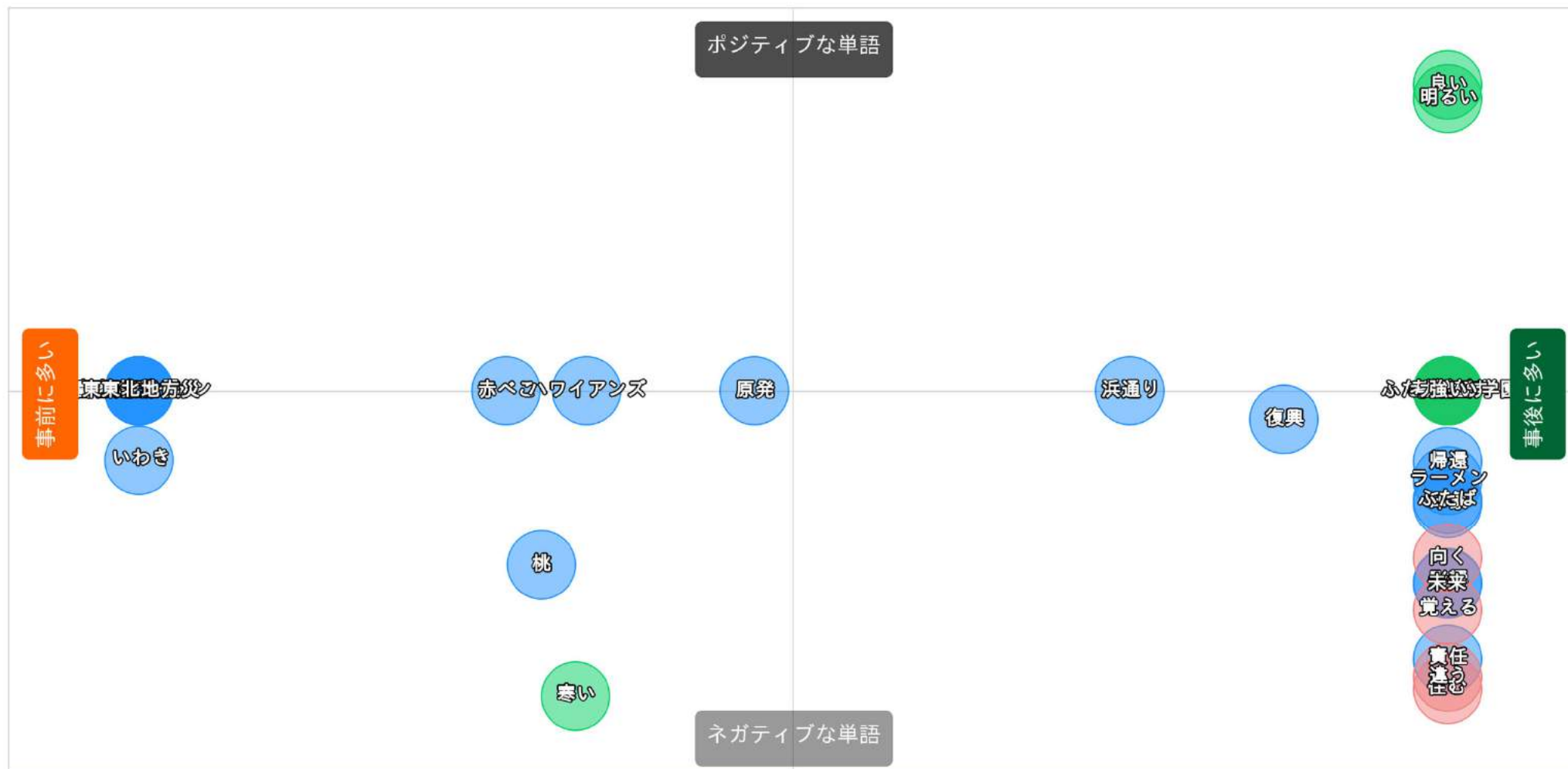
ワークショップ参加前



ワークショップ参加後

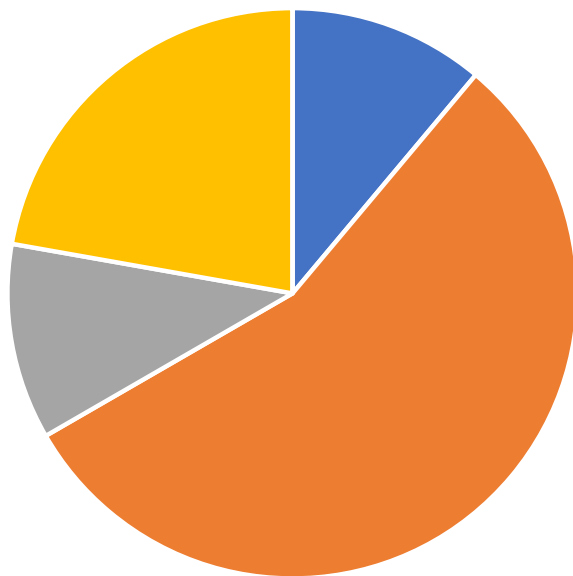


福島県の印象として、思いつくワードを5つ以上あげてください。

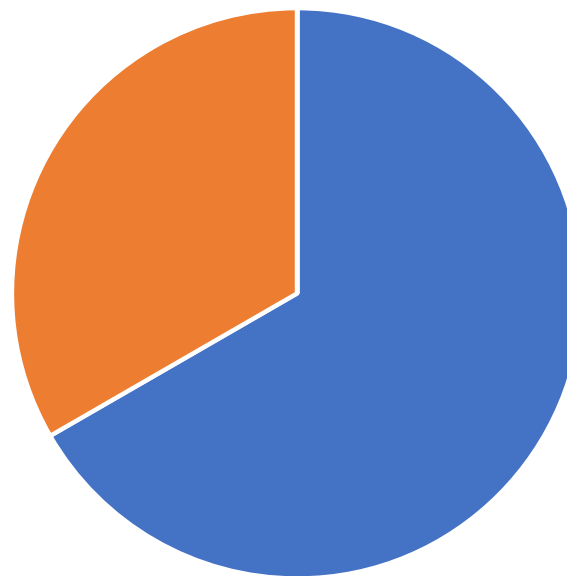


福島第一原子力発電所の事故を『自分事』として認識できますか

ワークショップ参加前

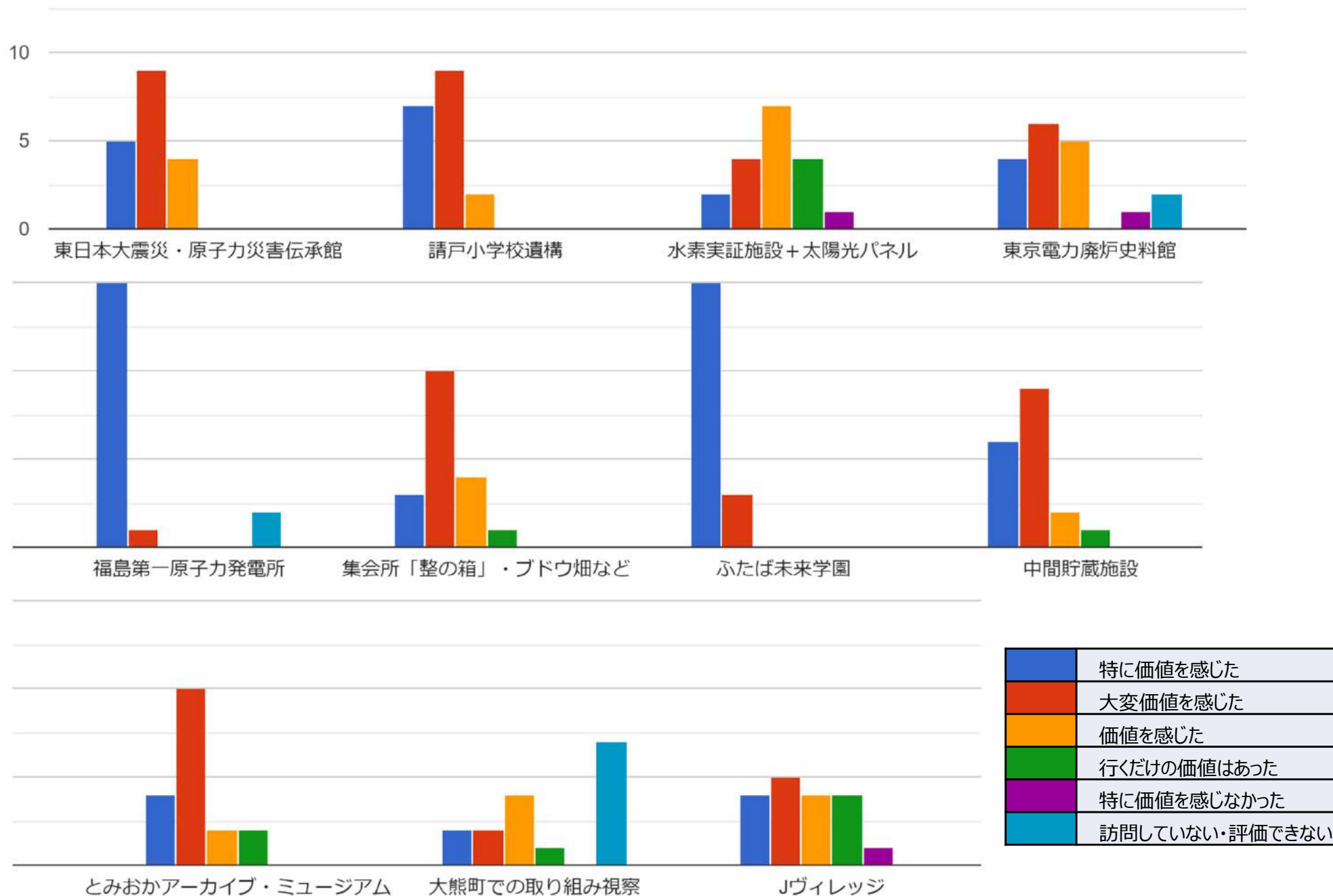


ワークショップ参加後



- 自分事だと思っている
- 多少は自分事だと思っている
- どちらとも言えない
- あまり自分事だと思えない
- 自分事とは思わない

今回の訪問施設等で、訪問する価値があったかどうか5段階で評価してください。
ただし、「特に価値を感じた」は最大3件までとしてください。

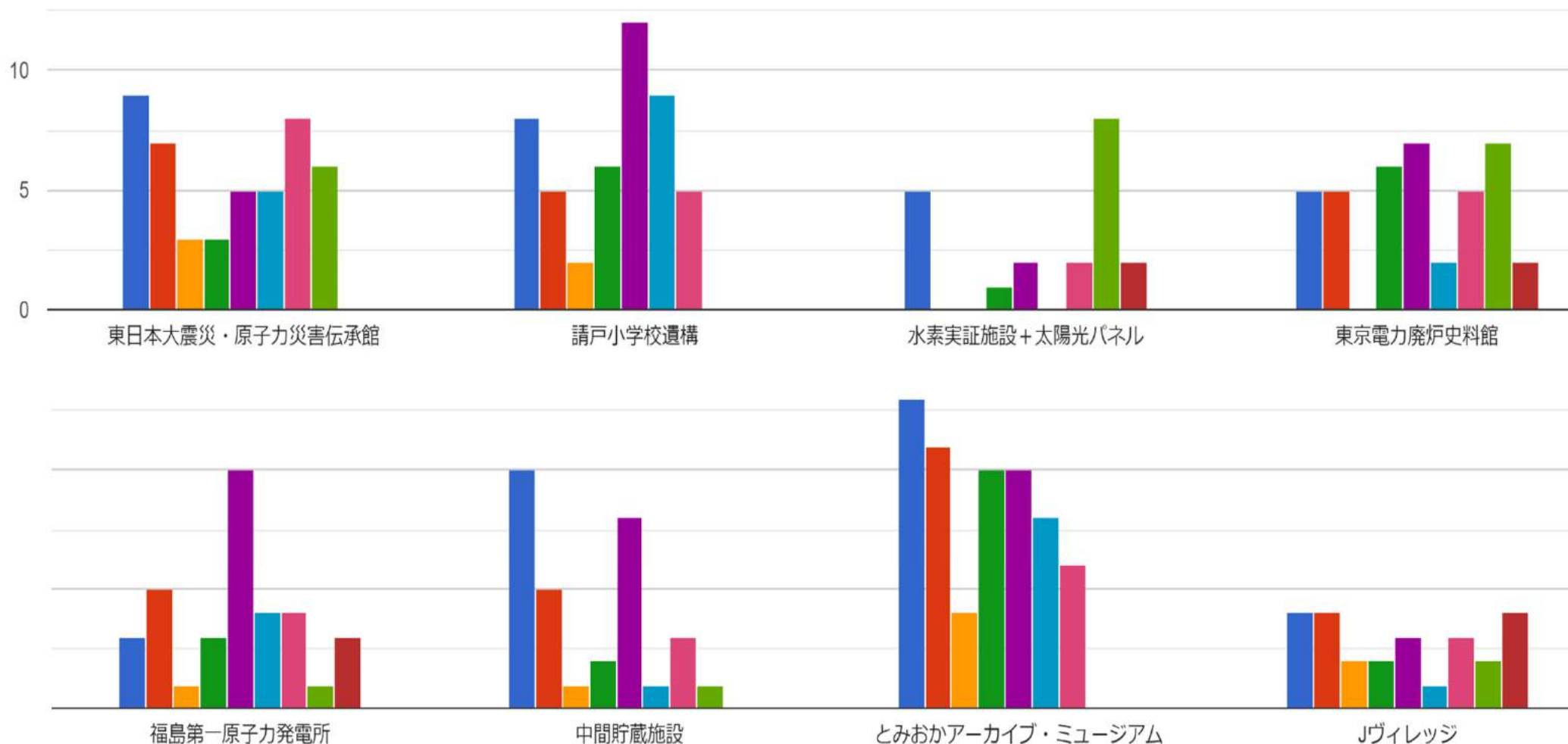


博物館・ミュージアムの展示・見せ方の等の工夫について、当てはまる項目を選択してください。

■	展示がわかりやすかった
■	展示に工夫を感じた
■	展示にアート性を感じた

■	展示にストーリーを感じた
■	展示にリアリティを感じた
■	展示に感情を揺さぶられた

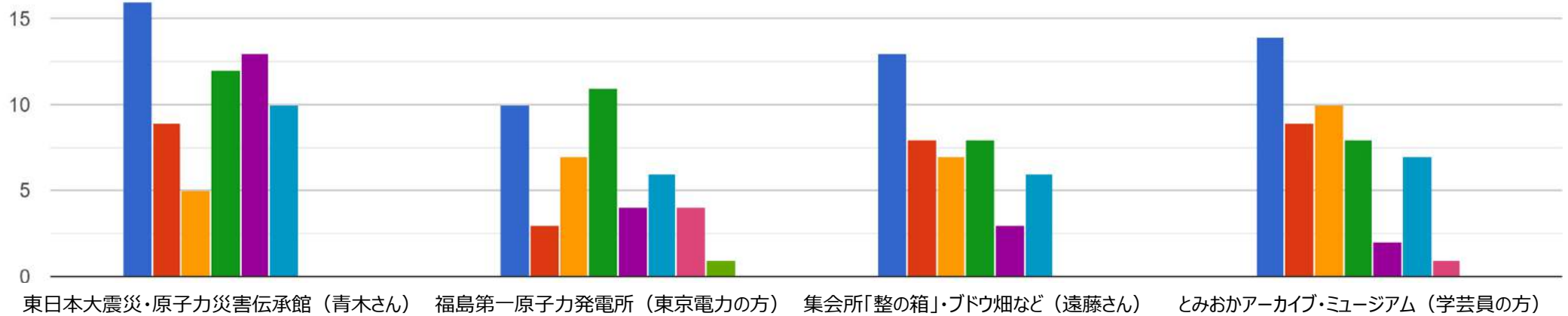
■	学び・教訓が伝わった
■	展示の改善の余地がある
■	訪問していない・評価できない



施設の解説や語り部の方のお話しはどうでしたか

話し方がわかりやすかった
話し方に工夫を感じた
話しと施設がフィットしていた
話しにリアリティを感じた

話しに感情を揺さぶられた
学び・教訓が伝わった
改善の余地がある
話を聞いていない・評価できない



対話の場での議論はどうでしたか

積極的に発言できた
人の意見が十分に聞けた
理解が深まった
考え方が大きく変化した
新しい発想が生まれた

復興を身近に感じた
これからも復興に関わりたいと思った
学び・教訓が伝わった
参加していない・評価できない

